

# 2019年12月期 決算説明会

2020年2月14日  
THK株式会社  
代表取締役社長  
寺町彰博

本資料に含まれている事業計画、業績予想、経営戦略など将来の見通しに関する事項は、本資料制作時点において入手可能な情報に基づき、THK株式会社の経営者が判断したものです。したがって、環境の変化により、業績や戦略の進捗状況が異なることがあり得ることをご承知ください。また、当資料には決算開示事項以外の参考情報が含まれますこともご承知ください。

# 目次

**I. 2019年12月期 決算概要**

**II. 経営目標の達成に向けた取り組み**

**III. 2020年12月期 業績予想**

# I. 2019年12月期 決算概要

## 売上高は前期比21.4%減少の2,779億円となった

※地域別売上高は  
海外売上高ベース

- 米中経済摩擦の影響により中国を中心とする投資の手控えが世界的に広がり、全般的に発注や在庫の調整が進む中、各地域で受注水準は低位に推移した。
- そのような中、半導体関連の投資の拡大や自動化・ロボット化の進展を背景に、それまで高水準に積み上がってきた受注残を着実に売上高へと繋げていき、受注残の水準は概ね正常化した。

## 営業利益は前期比65.4%減少の172億円となった

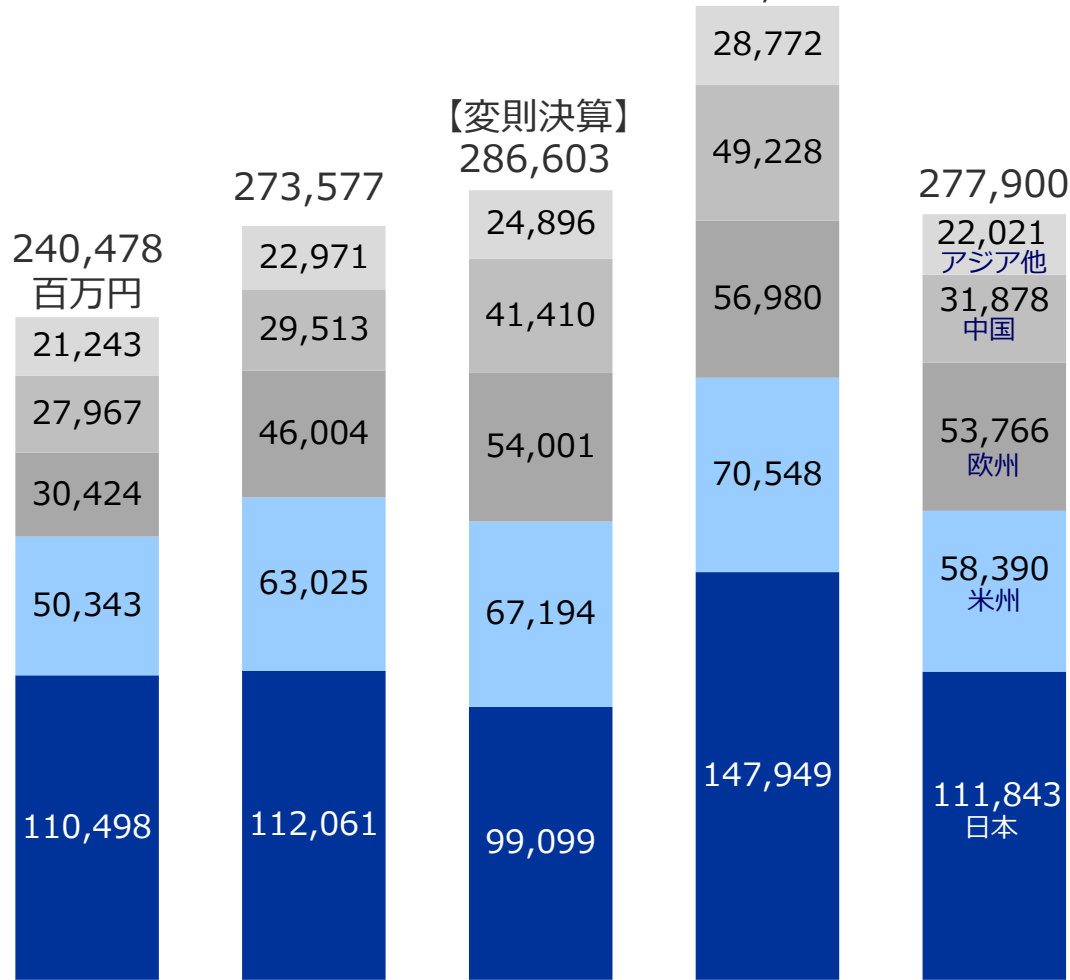
- 需要が調整し売上高が減少する中、コストコントロールにより減益幅の抑制に努めたが、主に売上高の減少により前期比で減益となった。

## 2019年11月に修正した計画に対し、売上高、営業利益ともに上回った

- 2019年11月に修正発表した計画に対して、売上高は19億円、営業利益は4億円、それぞれ上回った。

# 売上高の推移

353,479



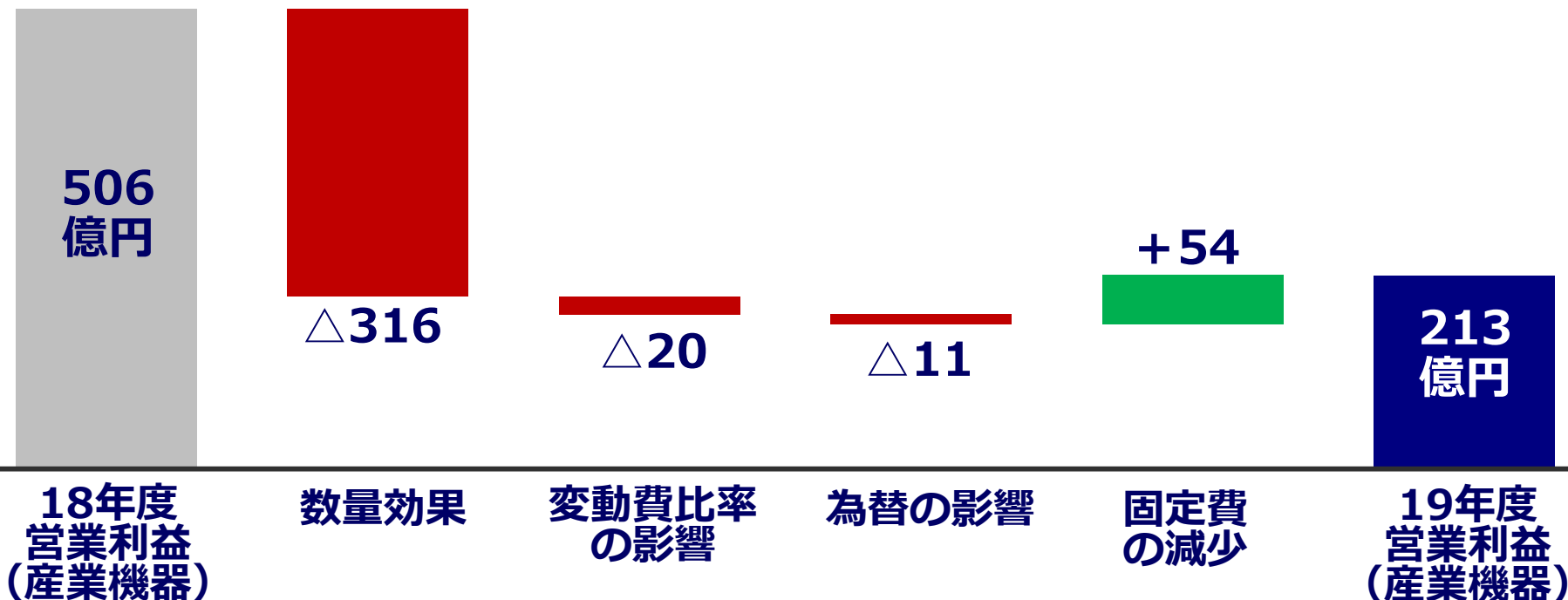
地域	増減率
<b>アジア他</b>	
●台湾	△26.8%
●シンガポール	△27.4%
●インド	△23.3%
<b>中国</b>	
●工作機械	△36.5%
●一般機械	△18.9%
●エレクトロニクス	△37.4%
●輸送用機器	△8.9%
<b>欧州</b>	
●工作機械	△6.4%
●一般機械	△6.5%
●エレクトロニクス	△8.1%
●輸送用機器	△1.7%
<b>米州</b>	
●工作機械	△17.9%
●一般機械	+ 2.8%
●エレクトロニクス	△41.4%
●輸送用機器	△14.4%
<b>日本</b>	
●工作機械	△31.4%
●一般機械	△29.7%
●エレクトロニクス	△34.0%
●輸送用機器	△11.6%

邦貨換算レート	2016/3	2017/3	2017/12	2018/12	2019/12
1US\$	121.05	108.87	112.19	110.42	109.04
1EUR	134.32	120.36	126.66	130.36	122.08
1CNY	19.22	16.37	16.62	16.71	15.79

※地域別売上高は所在地セグメントではなく海外売上高ベース  
 ※業種別伸び率は1-12月の現地通貨ベース  
 ※輸送用伸び率はTHKリズムとTRAの合計値比較

※2017年12月期実績は、国内9ヵ月、海外12ヵ月の変則決算期をベースとしております。

# (参考) 営業利益 増減要因 (産業機器事業)



FY19の 事業別実績 単位：億円		FY18	FY19
産業機器	売上高	2,386	1,779
	営業利益	506	213

FY19 セグメント別営業利益	
日本	13,514百万円
北米	△611百万円
欧州	△440百万円
中国	2,402百万円
アジア他	1,138百万円
調整額	1,262百万円

# (参考) 営業利益 増減要因 (輸送機器事業)

△8億円



△18



△8



△7

±0

△41  
億円

18年度  
営業利益  
(輸送機器)

数量効果

変動費比率  
の影響

固定費  
の増加

為替の影響

19年度  
営業利益  
(輸送機器)

FY19の 事業別実績 単位：億円		FY18	FY19
輸送機器	売上高	1,148	1,000
	営業利益	-8	-41



- ・ 変動費比率の影響は、TRAカナダにおける材料価格の上昇やアルミ鍛造の新製品の立上げに伴い想定外の費用が発生したことなどが主な要因

# 資産・負債/純資産の状況

**総資産 459,909 百万円**  
**前期比  $\Delta$ 3,022 百万円**

## 現金及び預金 | 前期比 +14,577百万円

営業CF	27,177百万円
投資CF	$\Delta$ 30,000百万円
財務CF	19,470百万円
換算差額	$\Delta$ 2,069百万円

## 売上債権 | 前期比 $\Delta$ 28,882百万円

売上債権回転月数	前期 3.1ヵ月 当期 2.8ヵ月
----------	----------------------

## 棚卸資産 | 前期比 $\Delta$ 1,945百万円

棚卸回転月数	前期 1.7ヵ月 当期 2.1ヵ月
--------	----------------------

## 有形固定資産 | 前期比 +13,505百万円

設備投資	31,685百万円
減価償却費	14,524百万円

## 無形固定資産 | 前期比 $\Delta$ 3,160百万円

## 流動資産

271,764

前期比  $\Delta$ 13,117

## 負債

165,679

前期比  $\Delta$ 2,533

## 純資産

294,229

前期比  $\Delta$ 490

## 固定資産

188,144

前期比 +10,095

## 流動負債 | 前期比 $\Delta$ 20,932百万円

- 仕入債務 | 前期比  $\Delta$ 14,999百万円  
仕入債務回転月数 前期 1.7ヵ月  
当期 1.5ヵ月

- 未払法人税等 | 前期比  $\Delta$ 11,562百万円

- 1年内返済予定の長期借入金 | 前期比  $\Delta$ 10,000百万円

- 1年内償還予定社債 | 前期比 +20,000百万円

## 固定負債 | 前期比 +18,399百万円

- 長期借入金 | 前期比 +17,815百万円

## 親会社株主に帰属する当期純利益

9,602百万円

## 為替換算調整勘定 | 前期比

$\Delta$ 3,341百万円

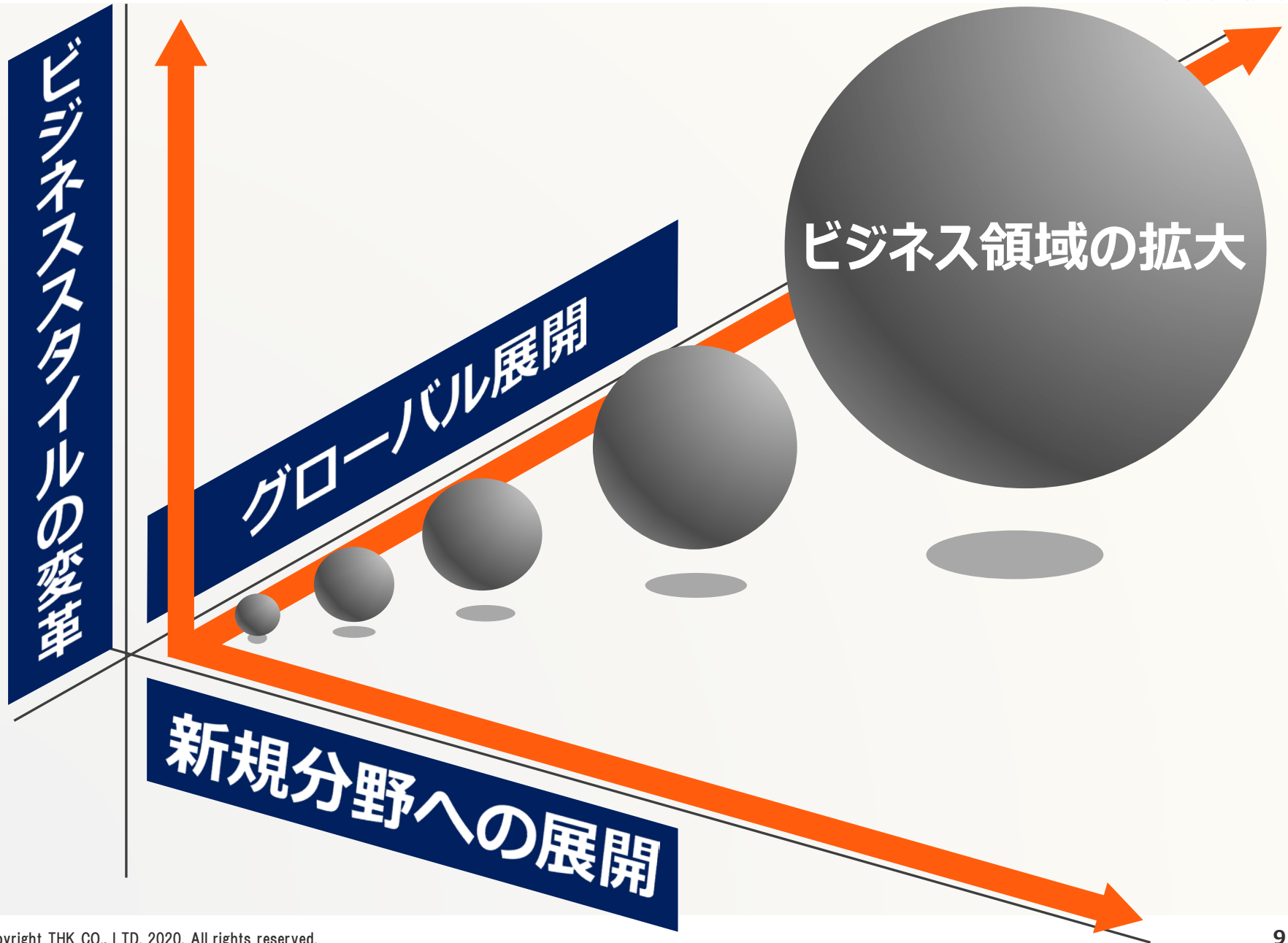
## 配当金の支払い

$\Delta$ 7,944百万円

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度に係る数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。



## Ⅱ. 経営目標の達成に向けた取り組み



# 中長期的なマーケットの拡大

## THKの成長ポテンシャルは飛躍的に拡大

THKの  
ソリューション

半導体関連向け  
FA関連向け製品

医療機器向け  
製品

電動  
アクチュエータ

サービスロボット  
関連製品

Omni THK  
OMNIedge

次世代  
自動車部品

高品質  
な部品

Needs

見える化

Needs

電動化

5G

AI・IoT

Industry  
4.0

CASE

自働化  
省人化

省エネ化

デジタル  
テクノロジーの進化

地球環境の変化  
(保護機運の高まり)

マクロ動態の変化  
(先進国における  
人手不足  
長寿命化)

変化の  
キーワード

メガトレンド

# 各事業における主な取り組み トップライン拡大

**産業機器事業**  
約1,500億円up



- 幅広い顧客向けの販売
- 継続的新製品開発
- 新規分野の開拓
- アクティブ且つ効率的営業活動
- グローバル生産体制の拡充

**輸送機器事業**  
約350億円up

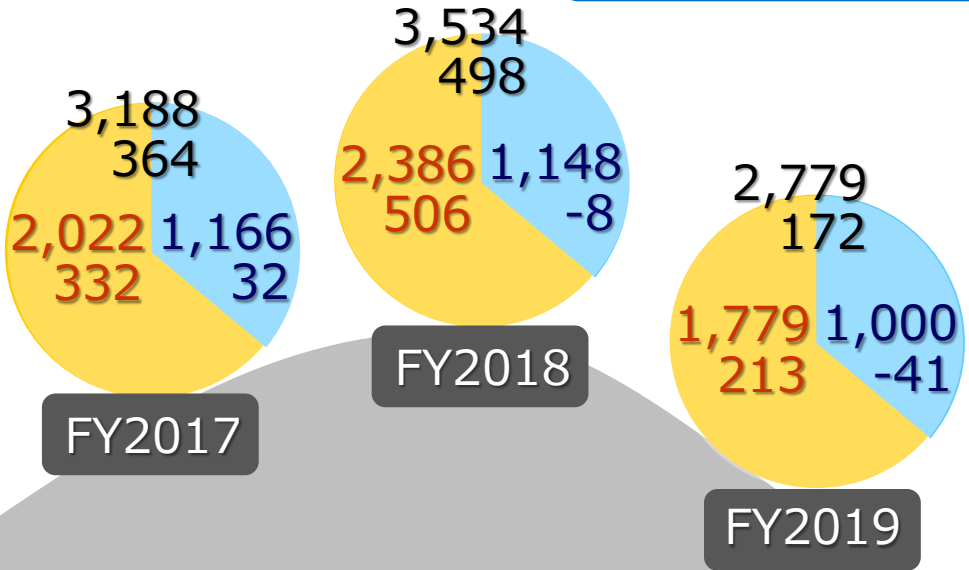


- L&S事業拡大
- 自動車向け新製品

連結売上高 : 5,000億円  
営業利益 : 1,000億円  
ROE : 17%

産業機器事業	輸送機器事業
売上高 : 3,500	売上高 : 1,500
営業利益 : 900	営業利益 : 100

※輸送機器事業はTHKリズムとTRAの合計値



- ## ボトムライン強化
- |  |  |
|--|--|
| <p><b>【産業機器事業】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ロボット化・自動化</li> <li>2. グローバル生産の見える化</li> </ol> | <p><b>【輸送機器事業】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工場相互利用</li> <li>2. 購買の共同化</li> <li>3. 製品統合</li> </ol> |
|--|--|

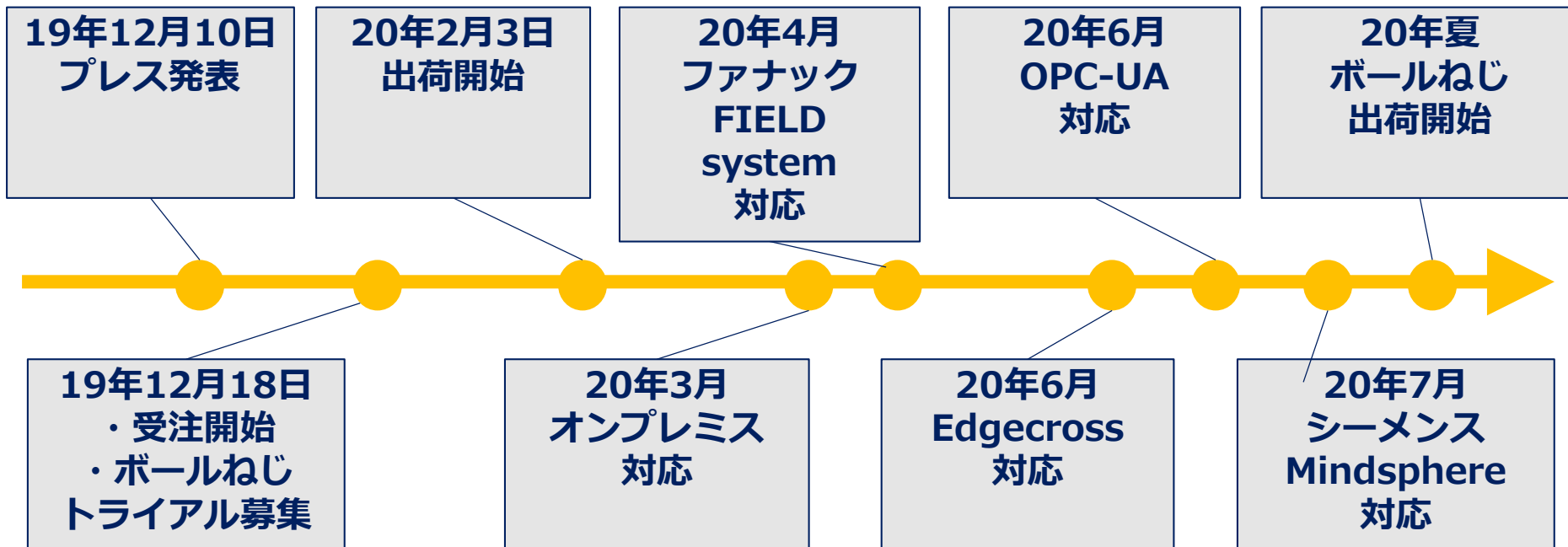
# 製造業向けIoTサービス「OMNIedge」

## OMNIedge 2019年12月18日 受注開始

	LMガイド	ボールねじ
受注開始	2019年12月18日	2020年夏予定
無償 トライアル	—	2019年12月18日 50社募集開始

サブスクリプション型料金体系を採用（年契約・年払い）  
月だと8,000円/装置～ ※年間契約

### 今後の展開



# 製造業向けIoTサービス「OMNIedge」



信頼高い回線運用  
グローバル展開可能な回線提供



直動系部品シェアNo.1  
グローバルに生産を展開



OMNIedge

ネットワーク機器シェアNo.1  
堅牢なネットワークデザイン



大規模インフラの提供で  
培った技術力



## センサからネットワーク環境までワンストップで提供

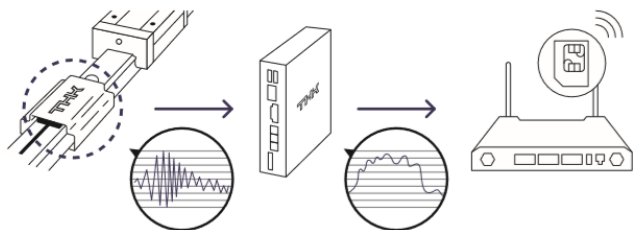
① 簡単（レトロフィット）

② 安全

③ 初期コスト0

### 簡単に設置

専用センサを設置して電源を入れるだけでネットワークを自動構築。

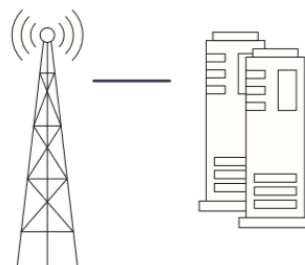


センサで損傷や  
潤滑状態などを数値化。

エッジコンピューティングルータに  
必要なデータのみ拾い上げる。

### 安全に運用

閉域ネットワークで安全に収集。  
グローバル展開にも対応。



安全な通信

安全な通信

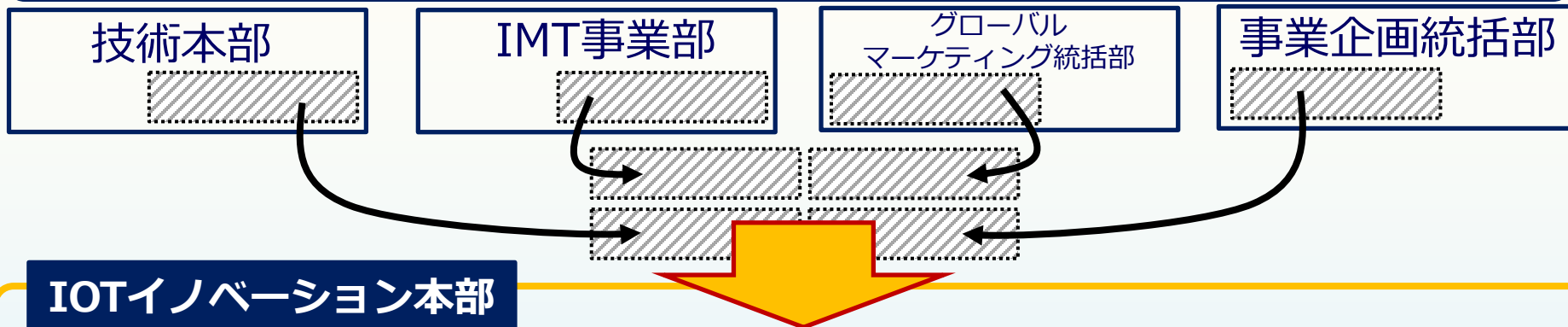
### 予兆を検知

THK部品データを予兆検知ソフトで解析。  
メールでお知らせ。データの蓄積により、  
ソフトウェアが学習・進化。



# IOTイノベーション本部の新設

IoTやAIなどのデジタル技術を活用して  
社会・お客様・THKのイノベーションを実現する



## IOTイノベーション本部

### ソリューション開発部

プラットフォーム、ソフトウェア、デバイス  
リニアモータ、コントローラ開発

### アカウント営業部

OMNIedge、Omni THK  
リニアモータ・制御

### 企画・マーケティング部

OMNIedge、Omni THK  
リニアモータ・制御




OMNIedge、Omni THK、その他IoT、AIに関連する新商品の企画・開発・営業

## THK DXプロジェクト STEP2始動 ～徹底的な収益性向上を追求～

収益最大化 

売上 

費用 

顧客 (エリア・業種)   
商品・サービス   
単価・数量 

固定費  
変動費

設備  
人  
時間  
その他

STEP2

売上向上策  
(海外展開を前提)

高付加価値業務  
への人員シフト

STEP1

定型業務  
工数削減



# グローバル生産体制の拡充（産業機器事業）

## THK India

新工場 2020年4月稼働予定

品目：LMガイド

土地面積： 約205,000m<sup>2</sup>

第一期床面積：約 37,000m<sup>2</sup>



## SAMICK-THK 大邱テクノポリス工場(KOREA)

新工場 2020年4月稼働予定

品目：LMガイド

土地面積：約50,000m<sup>2</sup>

床面積： 約43,000m<sup>2</sup>



## 山形工場(日本)

増築新工場

2019年3月完成



品目：アクチュエータ  
ボールねじ  
LMガイド

床面積：約32,000m<sup>2</sup>

## TMV(ベトナム)

増築新工場 2018年11月完成

品目：ミニチュア  
LMガイド

床面積：約16,000m<sup>2</sup>



## サービス産業の省力化支援

物流



ショッピング



キッチン



航空機



免震・制震

Home Automation



再生可能  
エネルギー



医療機器



人手不足・人件費高騰、及びIoTの進展を背景に拡大する  
サービス産業の省力化をお手伝い

# 自動化・省力化需要への取り組み

## ならいハンド

多種形状のワークに対応するハンドで  
製造ラインをサポート



## ピッキングロボットハンドシステム 「PRS」

モノに合わせた多種多様なハンドで  
物流ピッキングをサポート



## 自律移動制御システム「SIGNAS」

段差や複雑な経路も走行可能なロボットが  
建設現場をサポート





## L&S事業拡大

リズム・TRA相互の  
販売・生産を活かした  
受注活動を展開中



## 自動車向け新製品

“CASE”を追い風に  
自動車向け直動製品の  
開発を加速



次世代サスペンション部品

次世代ブレーキ部品

電動ステアリング部品

インテリア

## 大型案件に向けた増産投資継続中

THKリズムメキシカーナ  
2018年完成



THKリズム九州  
2019年完成



THKリズムノースアメリカ  
2019年完成



THKリズム常州  
2019年完成



# 輸送機器事業のリカバリープラン

- 施策1：生産再編（グローバルでの生産品目・生産ラインの見直し）
- 施策2：組織再編（グローバルでの人員・組織再編、アウトソーシング）
- 施策3：生産性・工程改善（ネックポイントへの技術支援強化）

2021年度に黒字化へ

営業利益

▲41億円

FY2019

施策3  
施策2  
施策1

▲34億円

FY2020(E)  
(IFRS)

約20億円のコスト削減

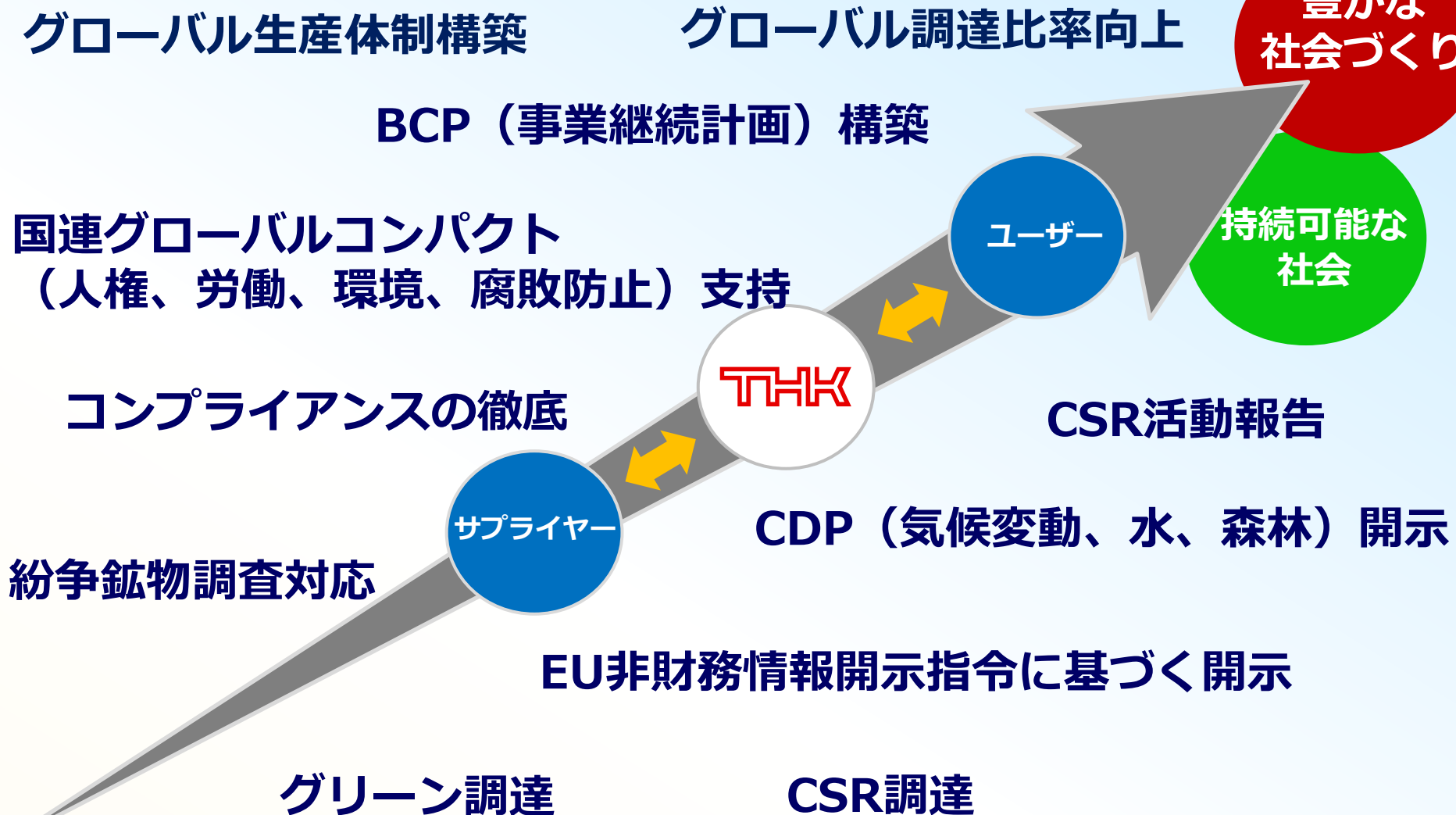
施策1,2,3の  
効果継続

15億円  
(黒字化)

FY2021(E)

# 持続可能な社会の実現に向けて

## さまざまなリスクや社会的要請への対応



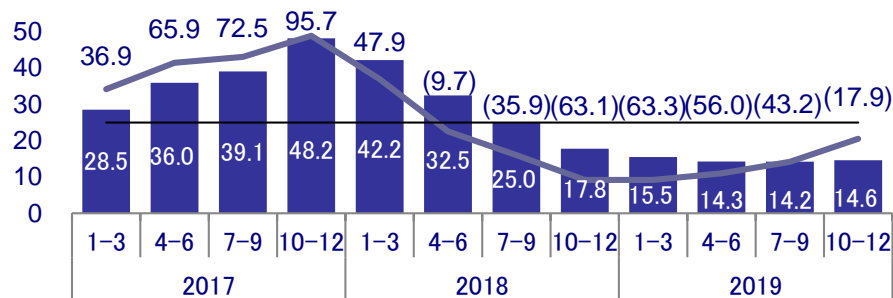
# Ⅲ. 2020年12月期 業績予想

# 地域別受注状況（産業機器事業）

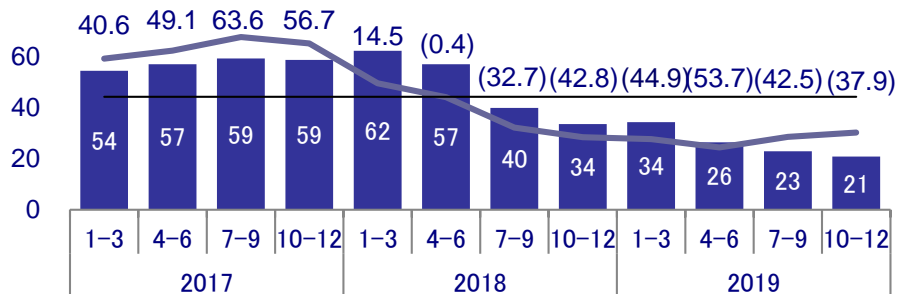
THK国内 \*輸出を除く 前年同期比、10億円

■ 受注高

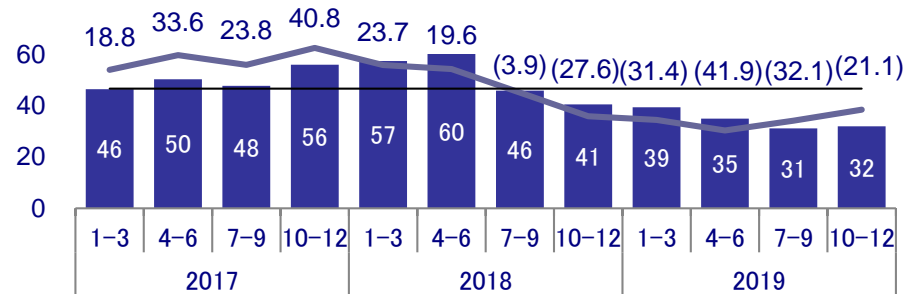
■ 輸送機器事業の移管分



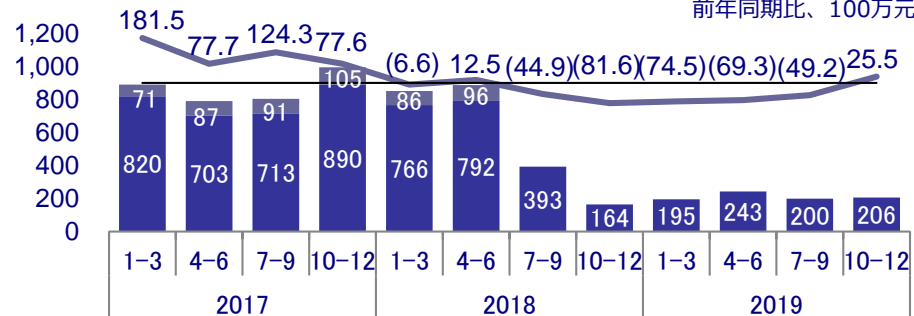
THK Europe 前年同期比、100万ユーロ



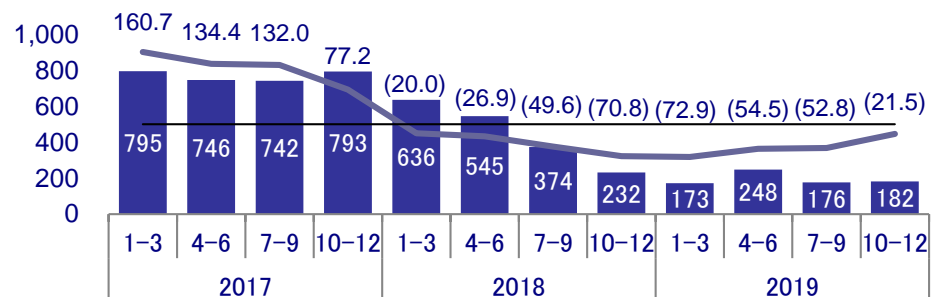
THK Holdings of America 前年同期比、100万ドル



THK (CHINA) CO., LTD. + THK (SHANGHAI) 前年同期比、100万円



THK TAIWAN 前年同期比、100万台湾ドル



\*輸送機器事業を下記の通り移管したため、その分を考慮のうえ遡及修正しております。なお、前年同期比は輸送機器事業控除後の数字より算出しております。

<中国>2018年7月より THK RHYTHM 広州とTHK RHYTHM 常州に移管

<欧州>2017年1月より THK RHYTHM AUTOMOTIVE GmbHに移管

<米州>2016年7月より THK RHYTHM NORTH AMERICAに移管



## ■ 目的

資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上や  
会計処理の統一によるグローバル経営管理の強化を図ること

## ■ 開示スケジュール

開示時期	開示資料	会計基準
2020年2月13日	2019年12月期 決算短信 2019年12月期 連結計算書類	日本基準
2020年3月	2019年12月期 有価証券報告書	IFRS
2020年5月	2020年12月期 第1四半期決算短信 2020年12月期 第1四半期報告書	IFRS

※2020年12月期の連結業績予想についてはIFRSで開示

※2019年12月期の有価証券報告書提出後にIFRSを適用した決算短信を開示予定

# 利益計画（連結）

	2020/12		2019/12	2018/12
	計画 (IFRS)	計画 (日本基準)	実績 (日本基準)	実績 (前期比は参考値)
<b>売上高</b>	264,000	267,500	277,900	353,479
前期比	-	△3.7%	△21.4%	+10.9%
<b>営業利益</b>	11,400	10,400	17,265	49,832
前期比	-	△39.8%	△65.4%	+36.9%
<b>税引前利益</b>	11,600	10,800	16,471	51,529
前期比	-	△34.4%	△68.0%	+37.0%
<b>親会社株主に 帰属する 当期純利益</b>	7,000	6,200	9,602	35,400
前期比	-	△35.4%	△72.9%	+16.8%

# 利益計画（単独）

(百万円)

	2020/12 計画 (日本基準)	2019/12 実績 (日本基準)	2018/12 実績 (前期比は参考値)
<b>売上高</b>	125,000	136,189	186,311
前期比	△8.2%	△26.9%	+17.8%
<b>うち国内</b>	87,500	92,800	126,899
前期比	△5.7%	△26.9%	+19.0%
<b>営業利益</b>	7,400	11,933	34,699
前期比	△38.0%	△65.6%	+65.9%
<b>経常利益</b>	8,900	15,746	39,053
前期比	△43.5%	△59.7%	+71.9%
<b>当期純利益</b>	6,800	7,559	28,035
前期比	△10.0%	△73.0%	△2.0%

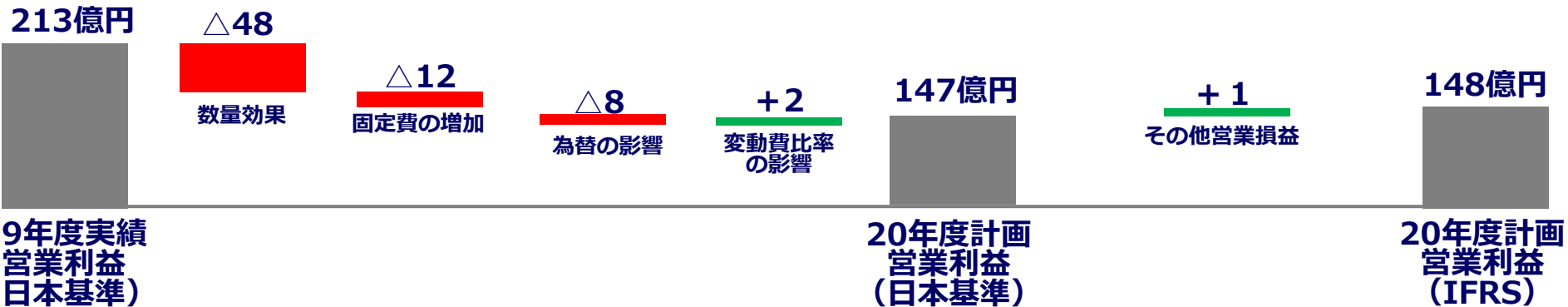
# 2020年度計画増減益要因（参考）

## 産業用 計画

日本基準 売上高：1,675億円  
営業利益：147億円

IFRS 売上高：1,674億円  
営業利益：148億円

IFRSによる影響

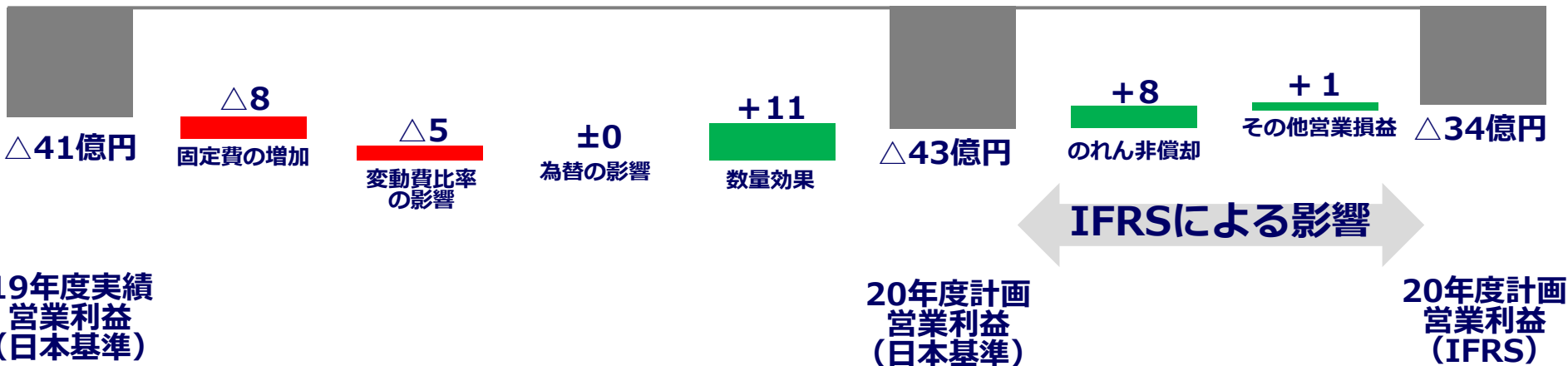


## 輸送用 計画

日本基準 売上高：1,000億円  
営業利益：▲43億円

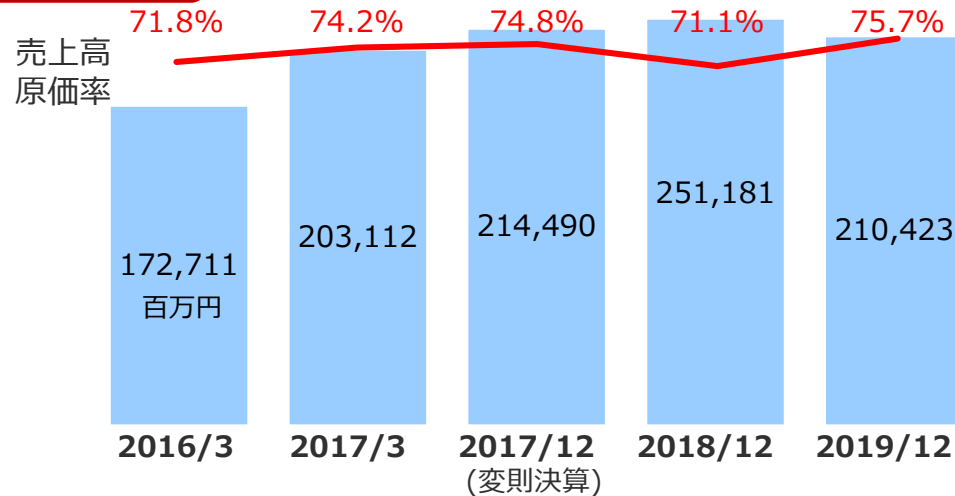
IFRS 売上高：966億円  
営業利益：▲34億円

IFRSによる影響



# 売上原価および販管費の推移

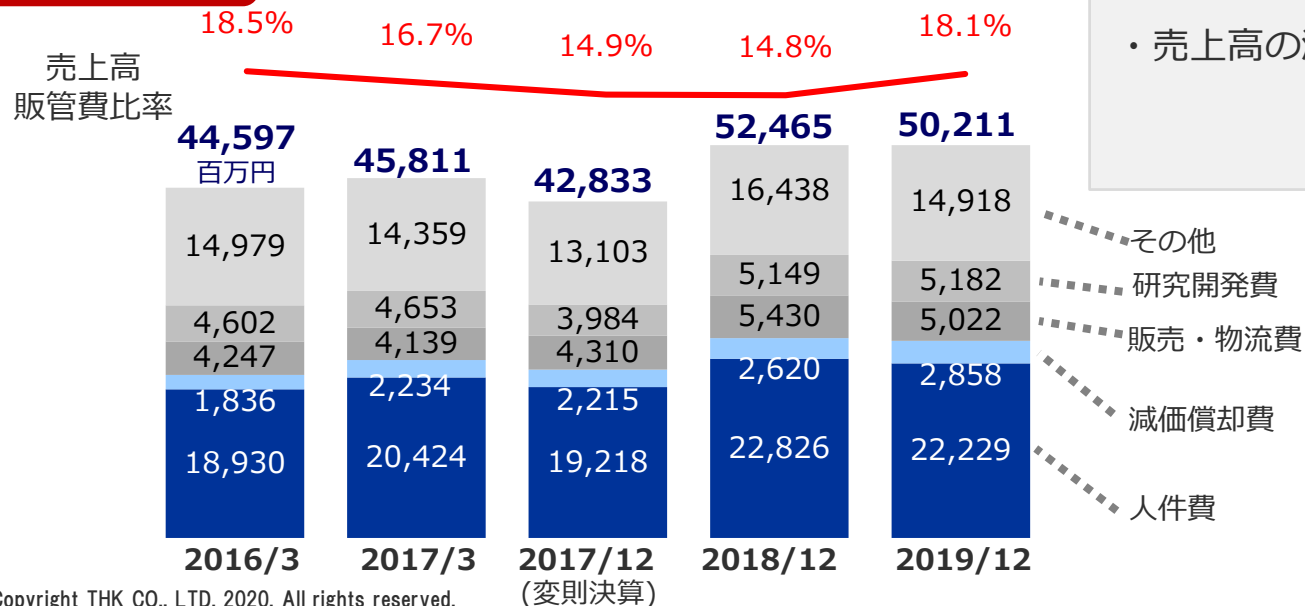
## 売上原価



原価率は前期比4.6ポイント上昇

・売上高の減少

## 販管費



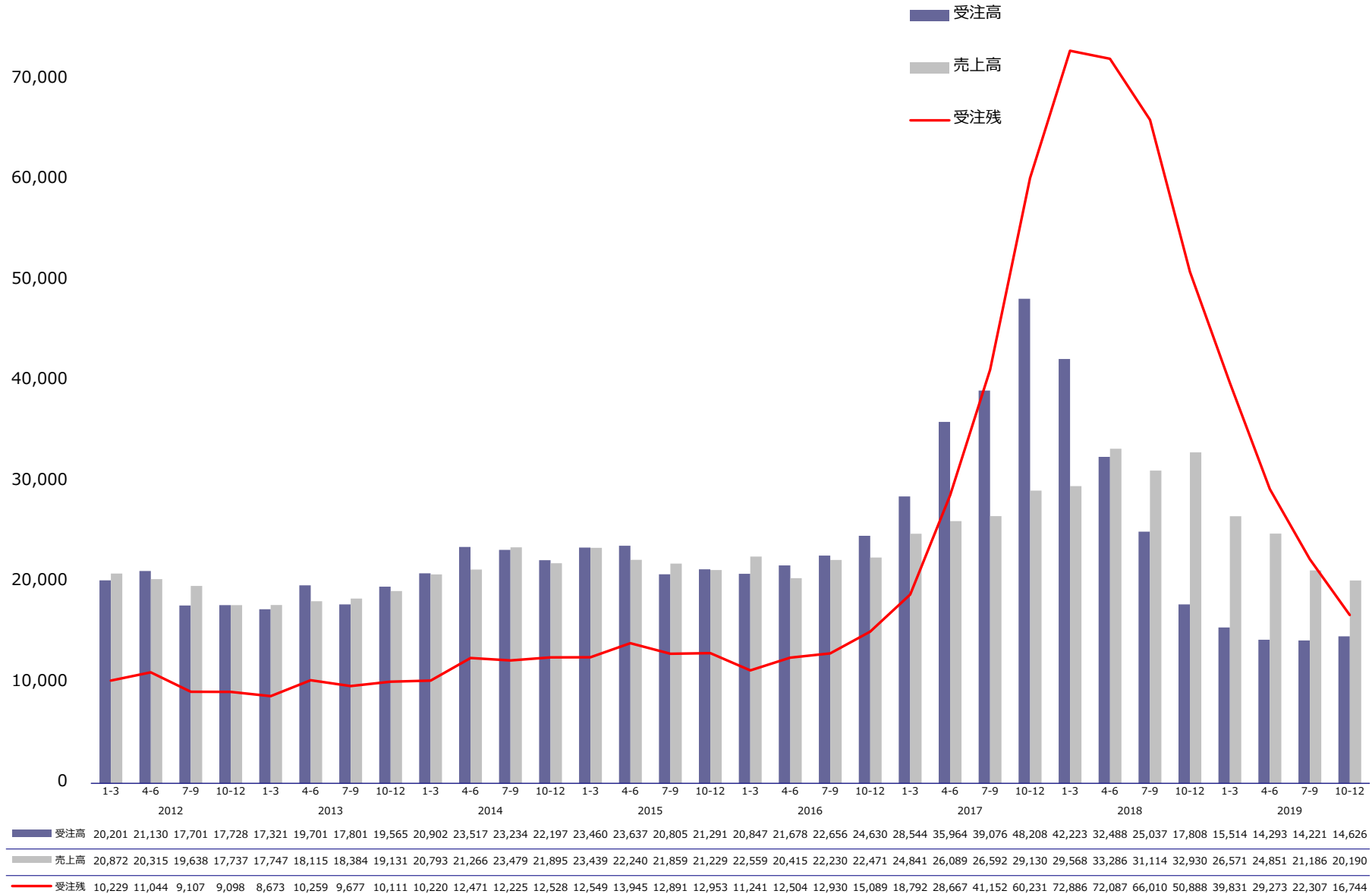
販管費比率は前期比3.3ポイント上昇

・売上高の減少

# 【補足資料】受注高・売上高・受注残高の推移（単独国内）



(100万円)  
80,000



# 【補足資料】業種別受注高の推移（単独）

(100万円)

